

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6340624号
(P6340624)

(45) 発行日 平成30年6月13日(2018.6.13)

(24) 登録日 平成30年5月25日(2018.5.25)

(51) Int.Cl.	F 1
B 6 0 J 3/00 (2006.01)	B 6 0 J 3/00 H
B 6 0 R 13/02 (2006.01)	B 6 0 R 13/02 B

請求項の数 2 (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2014-96909 (P2014-96909)	(73) 特許権者	000110321
(22) 出願日	平成26年5月8日(2014.5.8)		トヨタ車体株式会社
(65) 公開番号	特開2015-214191 (P2015-214191A)		愛知県刈谷市一里山町金山100番地
(43) 公開日	平成27年12月3日(2015.12.3)	(73) 特許権者	000003207
審査請求日	平成29年2月28日(2017.2.28)		トヨタ自動車株式会社
			愛知県豊田市トヨタ町1番地
特許法第30条第2項適用 <<特許メモ>> 参考文献には「…掛止部と…傾斜部及び…対向部との間に…フレーム部材の端が通り抜ける隙間が車室内側から見えないように形成されている…」点が記載も示唆もされていない。		(74) 代理人	100105957
			弁理士 恩田 誠
		(74) 代理人	100068755
			弁理士 恩田 博宣
		(72) 発明者	長江 忠
			愛知県刈谷市一里山町金山100番地 トヨタ車体 株式会社 内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 車両用サンシェード装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

窓枠下部の収納位置と窓の車室内側を覆う使用位置との間で移動可能な幕体と、
 前記幕体の上縁部に設けられたフレーム部材と、
 前記窓枠を構成する縦枠部の内周側に設けられるとともに樹脂材料よりなるフレームガーニッシュと、
 を備え、
 前記フレームガーニッシュには、前記フレーム部材の端が掛止される掛止部が設けられている車両用サンシェード装置であって、
前記幕体はリアサイドドアの前記窓の車室内側を覆うものであり、
前記フレームガーニッシュは後側の前記縦枠部の内周側に設けられ、
前記掛止部はフレームガーニッシュの前側縁よりも後側に設けられ、
前記使用位置にある前記幕体は、上下方向全体にわたって前記フレームガーニッシュと車両の前後方向においてオーバーラップされ、
前記フレームガーニッシュの意匠面は、車室内に露出する後側面と、同後側面の前側に隣接するとともに同後側面よりも車幅方向外側に位置し、前記使用位置にある前記幕体と車両の前後方向においてオーバーラップする前側面とを含み、
前記幕体の縁部は車幅方向において前記後側面と前記前側面との間に位置し、
前記掛止部は上側及び車幅方向外側に開放されたフック形状をなし、
前記前側面は、上側ほど車幅方向外側に位置する傾斜部と、同傾斜部の直上に位置する

10

20

とともに前記掛止部に対向する対向部とを有し、

前記掛止部と前記傾斜部及び前記対向部との間には前記フレーム部材の端が通り抜ける隙間が車室内側から見えないように形成されている、

車両用サンシェード装置。

【請求項 2】

前記掛止部は前記フレームガーニッシュと一体成形されている、

請求項 1 に記載の車両用サンシェード装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

10

本発明は、車両用サンシェード装置に関する。

【背景技術】

【0002】

車両においては、日よけやプライバシーの確保を目的として、リアサイドドアの窓の車室内側を幕体により覆うサンシェード装置が設けられたものがある。

サンシェード装置は、ドア本体の内部の収納位置と、窓の車室内側を覆う使用位置との間で移動可能な幕体を備えている。

【0003】

特許文献 1 では、窓枠上部の下面にフックが取り付けられており、使用位置にある幕体の上縁部に設けられた孔がフックに掛止されるようになっている。

20

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特開 2006-306295 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

ところで、一般に車両の窓枠は鋼板をロール成形することにより形成されており、閉じた断面を有している。そのため、前記特許文献 1 に記載のサンシェード装置の場合、成形後の窓枠にフックを取り付けるための孔を別途形成する加工が必要となり、加工に手間を要するものとなっている。

30

【0006】

本発明の目的は、幕体を掛止するための掛止部を容易に設けることができる車両用サンシェード装置を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0007】

上記目的を達成するための車両用サンシェード装置は、窓枠下部の収納位置と窓の車室内側を覆う使用位置との間で移動可能な幕体と、前記幕体の上縁部に設けられたフレーム部材と、前記窓枠を構成する縦枠部の内周側に設けられるとともに樹脂材料よりなるフレームガーニッシュと、を備え、前記フレームガーニッシュには、前記フレーム部材の端が掛止される掛止部が設けられている。

40

【0008】

同構成によれば、樹脂材料よりなるフレームガーニッシュに対して一体成形や嵌合などにより掛止部を設けることが可能となる。このため、掛止部を容易に設けることができる。

【発明の効果】

【0009】

本発明によれば、幕体を掛止するための掛止部を容易に設けることができる。

【図面の簡単な説明】

【0010】

50

【図１】一実施形態のリアサイドドアを車室内側から見た平面図。

【図２】同実施形態のリアサイドドアにおけるフレームガーニッシュを中心とした拡大平面図。

【図３】同実施形態のフレームガーニッシュの上部の斜視図。

【図４】図２の４－４線に沿った断面図。

【図５】図２の５－５線に沿った断面図。

【図６】図２の６－６線に沿った断面図。

【図７】同実施形態の前側掛止部材の斜視図。

【発明を実施するための形態】

【００１１】

10

以下、図１～図６を参照して、自動車のリアサイドドアに適用された車両用サンシェード装置及び同装置に用いられる車両用フレームガーニッシュの一実施形態について説明する。なお、以降において、車両前後方向を単に前後方向と称する。

【００１２】

図１及び図２に示すように、自動車のリアサイドドア１０は、ドアトリム１４により車室内側が覆われたドア本体１２と、同ドア本体１２の上部に設けられた窓枠１６とを備えている。

【００１３】

図１に示すように、窓枠１６は、ドア本体１２の前端から上方に向けて延びる前側縦枠部１６ａと、ドア本体１２の後端から上方に向けて延びる後側縦枠部１６ｃと、これら縦枠部１６ａ、１６ｃの上端の間に設けられて前後方向に沿って延びる横枠部１６ｂとからなり、例えば鋼板をロール成形することにより形成されている。

20

【００１４】

図１、図２、図４～図６に示すように、窓枠１６の外周側には、車両のドア開口周縁（図示略）との間をシールするウェザーストリップ５６が取り付けられている。また、図４に示すように、後側縦枠部１６ｃの内周側には、インナパネル５０が設けられている。インナパネル５０の下端はドア本体１２（図示略）に連結されている。また、図５に示すように、インナパネル５０の車幅方向外側には、アウトパネル１８がクリップ６０を介して取り付けられている。

【００１５】

30

図４に示すように、窓枠１６の内周側には、窓ガラス５８の周縁を支持するとともに同周縁との間をシールするガラスラン５４が設けられている。ガラスラン５４は図示しない位置においてインナパネル５０に取り付けられている。

【００１６】

図１に示すように、リアサイドドア１０には、窓の車室内側を覆う幕体２２を備えたサンシェード装置２０が設けられている。幕体２２は不使用時にはドア本体１２内部に設けられた巻取装置（図示略）により巻き取られて収納されている。また、幕体２２は使用時にはドアトリム１４の開口部１４ａを通じて窓ガラス５８の内面に沿って引き上げられる。幕体２２の上縁部にはフレーム部材２４が設けられている。フレーム部材２４は、前後方向に沿って延びる軸部２４ａと、前後方向の中央部に設けられたノブ２６を備えている。

40

【００１７】

図１及び図２に示すように、後側縦枠部１６ｃの内周側には、硬質合成樹脂材料よりなるフレームガーニッシュ３０が設けられている。図４及び図６に示すように、フレームガーニッシュ３０はインナパネル５０の車室内側に位置しており、クリップ５２ａ、５２ｂを介してインナパネル５０に取り付けられている。フレームガーニッシュ３０とインナパネル５０との間にはクッション材６２が介設されている。

【００１８】

図１～図４に示すように、フレームガーニッシュ３０の車室内側の面である意匠面は、車室内に露出する後側面３２と、同後側面３２の前側に隣接するとともに同後側面３２よ

50

りも車幅方向外側に位置する前側面 3 4 とを有している。

【0019】

図 3 に示すように、前側面 3 4 は、上側ほど車幅方向外側に位置する傾斜部 3 4 b と、同傾斜部 3 4 b の直上に位置する対向部 3 4 c とを有している。

フレームガーニッシュ 3 0 の上端部には、フレーム部材 2 4 の後端 2 4 c が掛止される掛止部 4 0 が前記対向部 3 4 c に対向するように一体成形されている。掛止部 4 0 は後側面 3 2 と前側面 3 4 との間の段差部から前側に突出するとともに同フレームガーニッシュ 3 0 の前側縁 3 4 a よりも後側に位置するように形成されている。従って、図 3 及び図 6 に示すように、掛止部 4 0 と前側面 3 4 の傾斜部 3 4 b 及び対向部 3 4 c との間にはフレーム部材 2 4 の後端 2 4 c が通り抜ける隙間 3 6 が形成されている。また、掛止部 4 0 は、上側及び車幅方向外側に開放されたフック形状をなしている。

10

【0020】

図 1 に示すように、前側縦枠部 1 6 a と横枠部 1 6 b との角部には硬質合成樹脂材料よりなり、フレーム部材 2 4 の前端 2 4 b が掛止される前側掛止部材 4 4 が取り付けられている。図 7 に示すように、前側掛止部材 4 4 は上側及び車幅方向外側に開放されたフック形状をなしており、前記角部に形成された図示しない孔に嵌合されている。

【0021】

フレーム部材 2 4 の前端 2 4 b が前側掛止部材 4 4 に掛止されるとともに後端 2 4 c が掛止部 4 0 に掛止された状態において、すなわち幕体 2 2 が使用位置にある状態において、幕体 2 2 の後縁部全体がフレームガーニッシュ 3 0 の前側面 3 4 の前側縁 3 4 a よりも後側に位置している。従って、使用位置にある幕体 2 2 は上下方向全体にわたってフレームガーニッシュ 3 0 の前側面 3 4 と車両の前後方向においてオーバーラップする。また、図 4 に示すように、使用位置にある幕体 2 2 の後縁部は、車幅方向において後側面 3 2 と前側面 3 4 との間に位置している。

20

【0022】

次に、本実施形態の作用について説明する。

サンシェード装置 2 0 を使用する際には、使用者はノブ 2 6 を摘んで幕体 2 2 を使用位置まで引き上げる。そして、フレーム部材 2 4 の前端 2 4 b を前側掛止部材 4 4 に掛止させるとともに後端 2 4 c を掛止部 4 0 に掛止させる。

【0023】

図 6 に二点鎖線にて示すように、フレーム部材 2 4 の後端 2 4 c を掛止部 4 0 に掛止させる際には、同後端 2 4 c を前側面 3 4 の傾斜部 3 4 b に沿わせながら前記隙間 3 6 を通じて上方に移動させることで同後端 2 4 c が掛止部 4 0 に円滑に案内される。

30

【0024】

また、使用位置にある幕体 2 2 が上下方向全体にわたってフレームガーニッシュ 3 0 と車両の前後方向においてオーバーラップするため、同幕体 2 2 とフレームガーニッシュ 3 0 との間に隙間が生じない。従って、幕体 2 2 による日よけやプライバシーの確保を効果的に行なうことができる。

【0025】

以上説明した本実施形態に係る車両用フレームガーニッシュ及び車両用サンシェード装置によれば、以下に示す効果が得られるようになる。

40

(1) サンシェード装置 2 0 は、窓枠 1 6 を構成する後側縦枠部 1 6 c の内周側に設けられるとともに樹脂材料よりなるフレームガーニッシュ 3 0 を備えている。フレームガーニッシュ 3 0 には、幕体 2 2 の上縁部に設けられたフレーム部材 2 4 の後端 2 4 c が掛止される掛止部 4 0 が一体成形されている。

【0026】

こうした構成によれば、樹脂材料よりなるフレームガーニッシュ 3 0 に対して一体成形により掛止部 4 0 を設けることが可能となることから、掛止部 4 0 の位置や形状の自由度を高めることができる。

【0027】

50

また、掛止部 40 がフレームガーニッシュ 30 と一体成形されているため、サンシェード装置 20 及びリアサイドドア 10 の部品点数を少なくすることができる。従って、サンシェード装置 20 が適用されるリアサイドドア 10 の組み立てを容易に行なうことができる。とともに、部品管理を容易に行なうことができる。

【0028】

(2) 掛止部 40 はフレームガーニッシュ 30 の前側縁 34a よりも後側に設けられている。

こうした構成によれば、掛止部 40 がフレームガーニッシュ 30 の前側縁 34a よりも前側に突出しないため、車外からは掛止部 40 が見えない。従って、掛止部 40 によってリアサイドドア 10 の見栄えが損なわれることはない。

10

【0029】

(3) 使用位置にある幕体 22 は上下方向全体にわたってフレームガーニッシュ 30 と車両の前後方向においてオーバーラップされている。

こうした構成によれば、幕体 22 が使用位置にあるときに同幕体 22 とフレームガーニッシュ 30 との間に隙間は生じない。このため、幕体 22 による日よけやプライバシーの確保を効果的に行なうことができる。

【0030】

(4) フレームガーニッシュ 30 の意匠面は、車室内に露出する後側面 32 と、同後側面 32 の前側に隣接するとともに同後側面 32 よりも車幅方向外側に位置し、前記使用位置にある幕体 22 と車両の前後方向においてオーバーラップする前側面 34 とを含み、幕体 22 の後縁部は車幅方向において後側面 32 と前側面 34 との間に位置している。

20

【0031】

こうした構成によれば、幕体 22 が車幅方向において後側面 32 と前側面 34 との間に位置しているため、使用位置にある幕体 22 を窓ガラス 58 に近接させることができる。従って、幕体 22 によって車室内の空間が制限されることを抑制することができる。

【0032】

(5) 掛止部 40 は上側及び車幅方向外側に開放されたフック形状をなし、前側面 34 は、上側ほど車幅方向外側に位置する傾斜部 34b と、同傾斜部 34b の直上に位置するとともに掛止部 40 に対向する対向部 34c とを有している。掛止部 40 と傾斜部 34b 及び対向部 34c との間にはフレーム部材 24 の後端 24c が通り抜ける隙間 36 が形成されている。

30

【0033】

こうした構成によれば、掛止部 40 に対向する前側面 34 の対向部 34c が、その直下の傾斜部 34b よりも車幅方向外側に位置している分だけ、掛止部 40 と対向部 34c との間隔を確保することができる。このため、掛止部 40 を車幅方向内側に突出させなくとも掛止部 40 と対向部 34c との間隔を容易に確保することができる。従って、掛止部 40 を追加することによりフレームガーニッシュ 30 の見栄えが損なわれることを抑制することができる。

【0034】

また、フレーム部材 24 の後端 24c を掛止部 40 に掛止させる際に、同後端 24c を前側面 34 の傾斜部 34b に沿わせながら前記隙間 36 を通じて上方に移動させることで同後端 24c が掛止部 40 に円滑に案内される。従って、フレーム部材 24 の後端 24c を掛止部 40 に容易に掛止させることができる。

40

【0035】

なお、上記実施形態を以下のように変更することもできる。

・前側面 34 の対向部 34c を省略し、前側面 34 を平滑面にすることもできる。この場合、例えば前側面 34 と後側面 32 との段差部の幅（車幅方向の長さ）を大きくして同段差部から掛止部を前側に突設することにより、掛止部と前側面との間にフレーム部材 24 の後端 24c が通り抜ける隙間を形成すればよい。

【0036】

50

- ・掛止部 40 を車幅方向内側に開放されたフック形状にすることもできる。
- ・段差部のない意匠面を有するフレームガーニッシュにすることもできる。この場合、掛止部を前記意匠面から車幅方向内側に突出するものとすればよい。

【0037】

・使用位置にある幕体 22 が、上下方向において部分的にフレームガーニッシュと車両の前後方向においてオーバーラップするものであってもよい。また、使用位置にある幕体 22 が、フレームガーニッシュと車両の前後方向においてオーバーラップしないものであってもよい。

【0038】

・窓枠 16 の前側縦枠部 16a の内周側にフレームガーニッシュを設けることもできる。この場合、前後一对のフレームガーニッシュに掛止部を設けるようにすれば、前側掛止部材 44 を省略することができ、前側縦枠部 16a に対しても孔を形成しないで済む。

10

【0039】

・サンシェード装置を車両のバックドアに対して適用することもできる。この場合、左右一对のフレームガーニッシュを設ければよい。

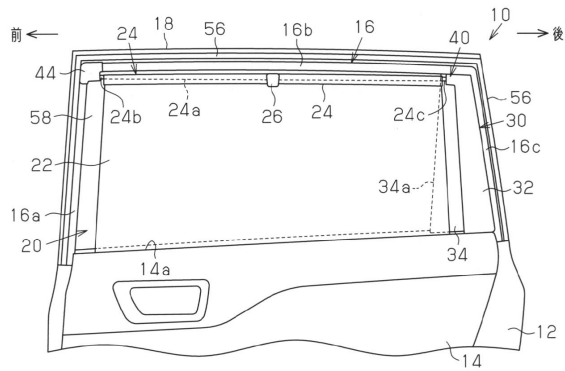
・掛止部をガーニッシュ本体と別体にて成形し、スナップフィットなどによってガーニッシュ本体に組み付けるようにしてもよい。

【符号の説明】**【0040】**

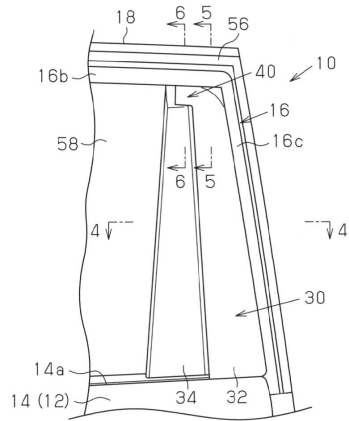
10…リアサイドドア、12…ドア本体、14…ドアトリム、14a…開口部、16…窓枠、16a…前側縦枠部、16b…横枠部、16c…後側縦枠部、18…アウトパネル、20…サンシェード装置、22…幕体、24…フレーム部材、24a…軸部、24b…前端、24c…後端、26…ノブ、30…フレームガーニッシュ、32…後側面、34…前側面、34a…前側縁、34b…傾斜部、34c…対向部、36…隙間、40…掛止部、44…前側掛止部材、50…インナパネル、52…クリップ、54…ガラスラン、56…ウェザーストリップ、58…窓ガラス、60…クリップ、62…クッション材。

20

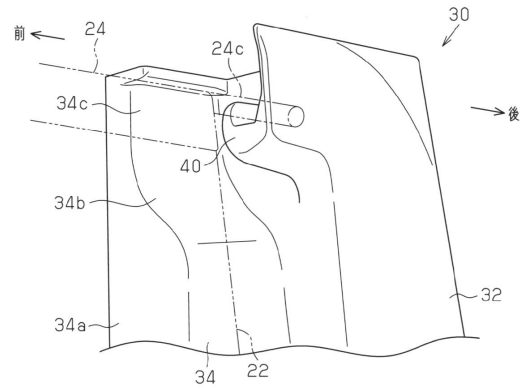
【図 1】



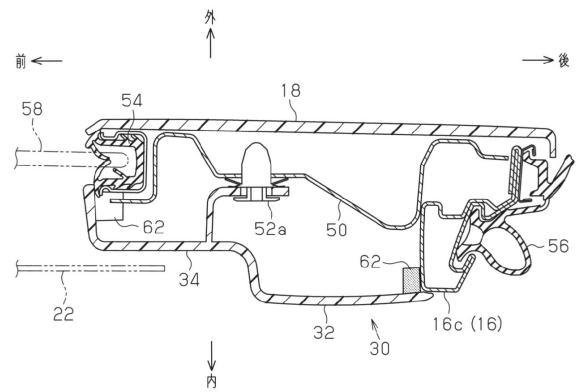
【図 2】



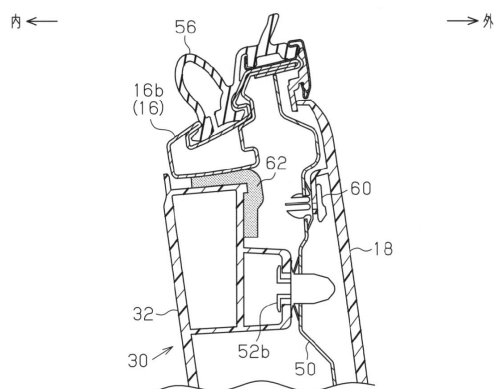
【図 3】



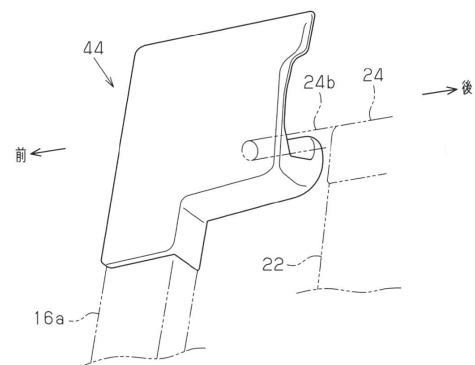
【図 4】



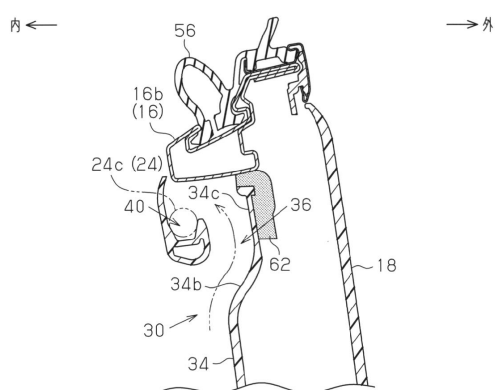
【図 5】



【図 7】



【図 6】



フロントページの続き

(72)発明者 上川 洋史

愛知県刈谷市一里山町金山100番地 トヨタ車体 株式会社 内

審査官 佐々木 智洋

(56)参考文献 特開2012-148597 (JP, A)

米国特許第04707018 (US, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B60J 3/00

B60R 13/02